

薬草カンゾウは愛媛でも栽培できる！

農林水産研究所

農林水産研究所では、国の薬用植物資源研究センターとの共同研究により、暖地におけるカンゾウ（甘草）の生育適応性について検討しました。

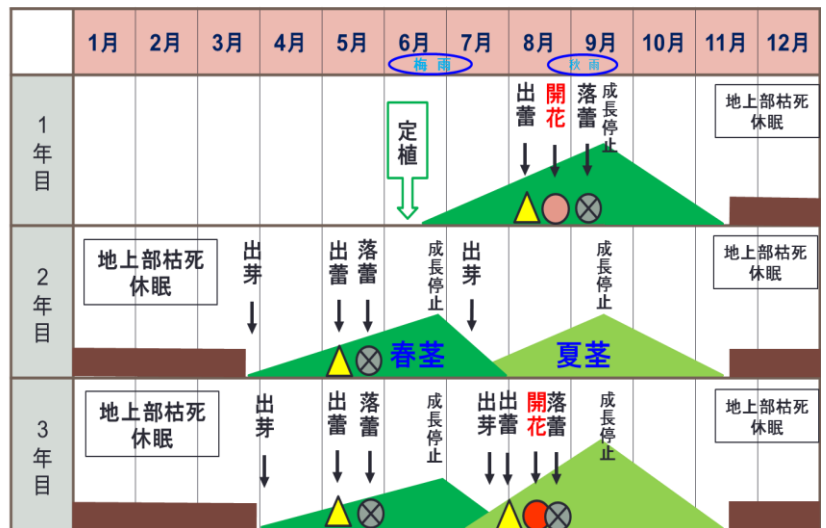
その結果、愛媛県の栽培では、自生地的气候に近い北海道よりも地下部の生育が旺盛で高収量となり、生薬の主要成分となるグリチルリチン酸含量も高くなることが明らかになりました。

ウラルカンゾウ 定植2年目の地上部(8月)と地下部(10月)の生育状況



・根の深度は最大1m以上、ストロンは横方向に2~3mまで伸長。

愛媛県におけるウラルカンゾウの生活サイクル



カンゾウ（甘草）とは 中国北部やモンゴルなどの高緯度乾燥地帯に自生するマメ科の多年生植物で、漢方処方約7割に配合される国内で最も需要の高い薬用植物です。生薬には、主に地下部の根やストロン（走出茎）が利用され、収穫には3~5年を要しますが、現在その全ては海外からの輸入に頼っているのが現状です。

北海道（名寄市）と愛媛県における収穫物（地下部）の比較

